

## 5 30年後の将来像

### 5-1 30年後の将来像

ビジョン策定過程における様々な意見を集約してとりまとめた「ビジョンを貫く基本理念」をもとに、川崎臨海部が目指す「30年後の将来像」を次のとおり表現しました。

#### ビジョンを貫く基本理念

- 川崎臨海部は今後も**産業（ものづくり）が高度に発展し続ける地域**として、世界で最も付加価値を生み出すエリアを目指すべきである。
- 多様性と交流を重視した地域**を目指すべきである。
- 産業エリアとしてだけでなく、**自然環境や暮らし、学びの機会が充足した地域**を目指すべきである。
- 羽田空港・京浜港や多摩川などの**地域資源を最大限に活用**するべきである。
- 川崎臨海部が**市民や就業者の誇りとなる地域**を目指すべきである。



#### 川崎臨海部が目指す「30年後の将来像」

- 成熟社会における**豊かさを実現する産業が躍動**し、革新的な技術、製品、サービスが生まれる知性と創造性のあふれる地域として、新しい価値を生み出し続けている。
- 「働く・暮らす・学ぶ」が一体となった受容性に富む地域として、**多様な人材や文化が共鳴**し、働く人や市民の誇りとなっている。

## 『豊かさを実現する産業が躍動』する臨海部は・・・

日本経済を牽引してきた国内有数のコンビナートが、重化学工業の国内市場縮小や設備老朽化により大きな転換期を迎える中、30年後は、川崎の強みである健康・医療、環境、素材、情報通信などの研究開発機能、技術、人材を活かしたオープンイノベーションにより知性が交わり、刺激を生むことで、社会的課題の解決と経済発展を両立する新しい価値を絶え間なく創出しています。

同時に、環境問題の経験を活かして企業の省エネ化・リサイクル化が一層進み、クリーンエネルギーを活用しながらゼロエミッション化を進めるとともに、震災・津波のリスクが高まる中でも強靱なライフラインと社会インフラ、協力体制が整っている安心して操業できる持続可能な地域となっています。

さらに、国際戦略港湾に指定されている川崎港の先端的な物流機能や道路網の充実などにより、臨海部が国内外の結節点としての役割を果たすとともに、羽田空港周辺地区と一体的に発展しています。

また、新たな交通ネットワークの整備等の新たな移動手段や交通システムが導入されるなど、臨海部の持続的な発展を支え価値を向上させる交通機能が強化され、誰もが快適に感じる交通環境が実現しています。

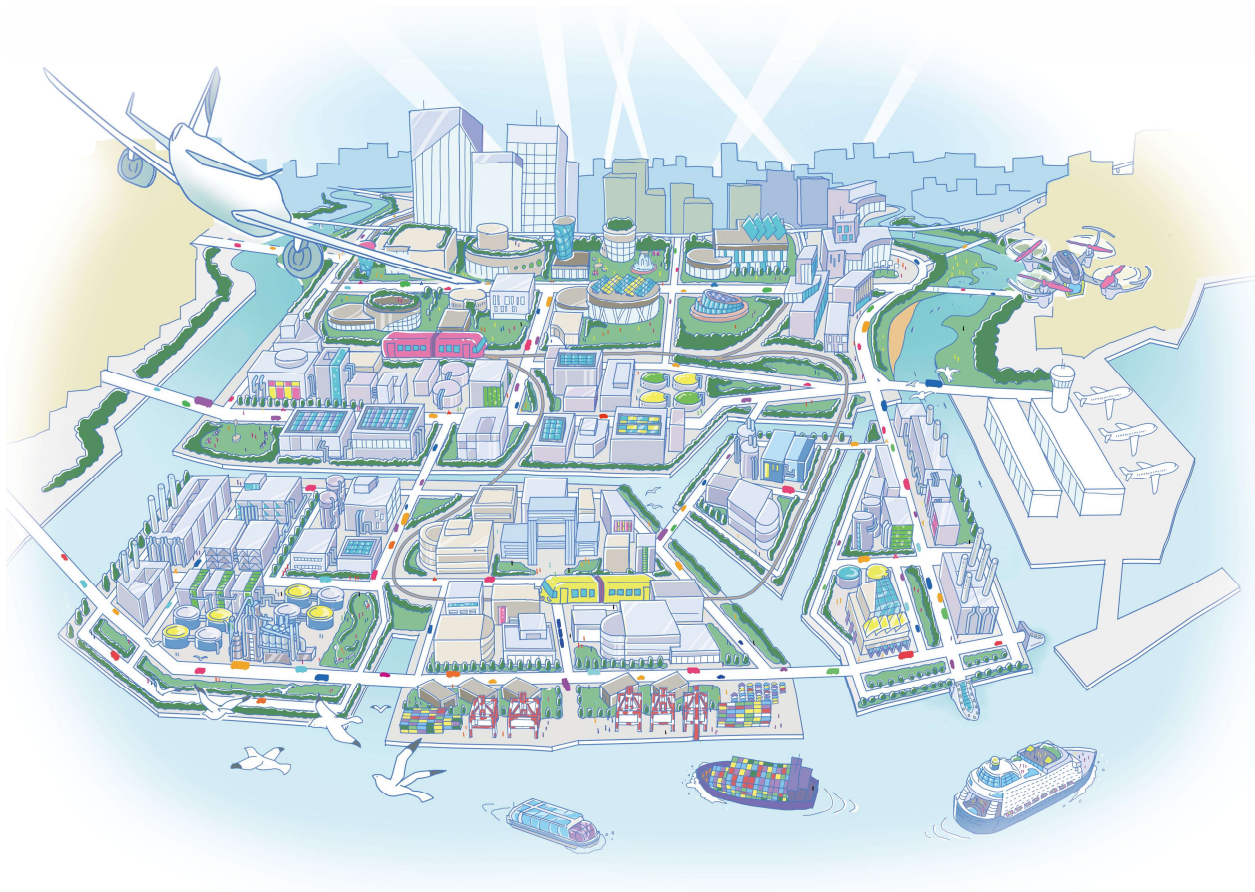
## 『多様な人材や文化が共鳴』する臨海部は・・・

これまで工業地帯として発展する一方で、就業者の憩いの場、飲食する場が不足しているといった課題がありましたが、これからはストレスのない、快適な就業環境を実現する地域として、まとまった緑地が整備され、空気や道路がきれいになり、多摩川をはじめとした臨海部の地域資源を活かした親水空間に市民や就業者が集い、憩うなど、誰もが「働いてみたい」「働き続けたい」環境が創出されています。

また、産業構造やライフスタイルの変化により立地企業の社宅が減少するなど、現在は住むエリアと働くエリアが分離していますが、30年後は、交通機能の強化とともに、川崎駅から臨海部までのエリアに多様な生活が可能となる住環境が整備され、働く場所と暮らす場所が一体となった「住み続けたい街」が実現しています。

羽田空港の近くにこうした環境が整うことにより、世界中から最先端の人材が集まるとともに、川崎の特長である研究人材や技能人材が育つ仕組みが整い、多様な人が交流できる地域となっています。その結果、文化的でデザイン性あふれる創造的空間が生まれ、イノベーションが次々に生み出されると同時に、臨海部のイメージが転換し、市民や働く人の誇りとなる新しい臨海部像が確立されています。

## SUPER HYBRID FRONT KAWASAKI



※川崎臨海部の30年後の目指す将来イメージを鳥瞰図として表したものです。

### SUPER HYBRID FRONT KAWASAKI

(スーパー ハイブリッド フロント カワサキ)

川崎臨海部の30年後を想起させる呼び名として、川崎臨海部が持つ様々な産業、人材、知性や文化が高度に融合し、社会変革を先導する新しい価値を生み出す地域であり続けるとともに、臨海部が川崎の玄関口として世界に飛躍していく場所であることを一言で表現しました。

これまでのイメージを一新し、「カッコいい」「ワクワクする」イメージを生み、高付加価値化とゼロエミッション化を両立させる突き抜けた地域であること、人、モノ、情報が行き交いながらアイデアを形にし新たな価値を創出するなど、異なる要素を混ぜ合わせ、組み合わせることによりイノベーションを創出していく地域であることを表し、これを30年後の将来像としています。

## 新しいアイデアを形にできる



川崎臨海部の30年後のイメージを様々な視点から表現したものです

この地域では、世界中から新しいアイデアを持つ人が集まり、最先端の研究開発と社会実装が行われて、アイデアを形にし、新しい価値を次々に生むことができます。そして、その価値が周辺地域にも波及しています。

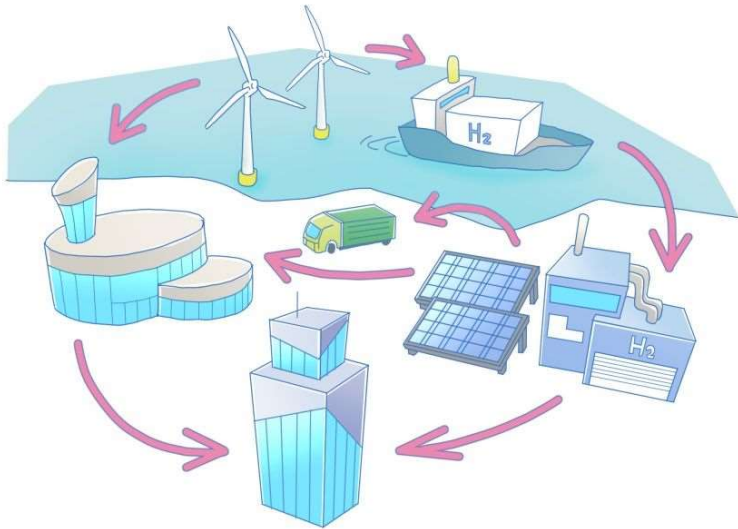
## 日本最大の付加価値を生み出している



この地域を支えてきたコンビナートの新陳代謝により、基幹産業が高機能化しながら環境調和・スマート化を実現し、日本で最も付加価値を生み出しています。



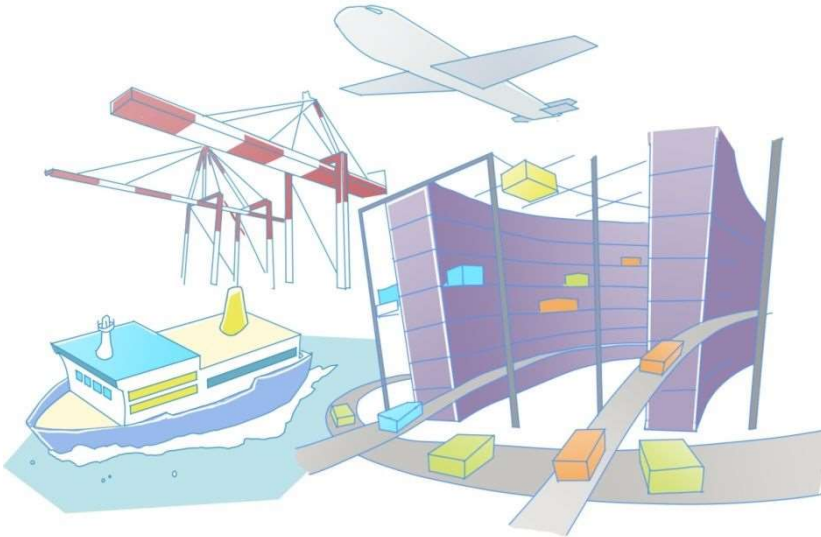
## ゼロエミッション化している



川崎臨海部の30年後のイメージを様々な視点から表現したものです

産業と環境が高度に調和し、新たな原料や素材の開発、クリーンエネルギーの普及・活用が進み、国際社会に貢献しながら地域全体で低炭素化・ゼロエミッション化が実現しています。

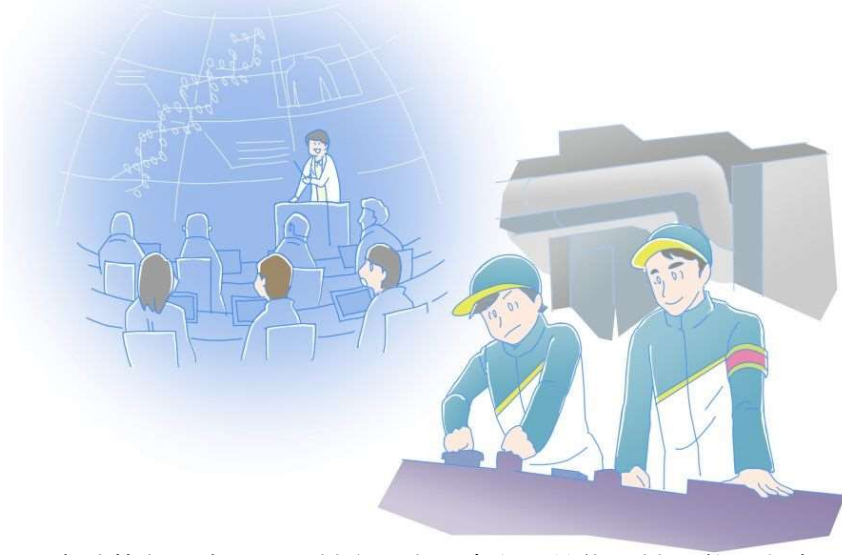
## 人、モノ、情報が行き交う拠点になっている



陸送、海運、空輸といった様々なニーズに対応した物流の高機能化を図るなど、国内外の重要な結節点としての役割を強化することにより、人、モノ、情報が行き交う日本を代表する拠点となっています。

## 最も自分が磨ける地域になっている

川崎臨海部の30年後のイメージを様々な視点から表現したものです



先端的な研究開発人材や日本を支える技能人材が学び交流できる仕組みが整うなど、この地域では基礎から応用まで学ぶことができるだけでなく、ここに来るだけで刺激が得られる、最も自分が磨き輝ける場所になっています。

## 楽しく働ける地域になっている



この地域に立地する企業、研究所はとても働きやすい就業環境が整っており、また、職場の近くで快適に飲食、交流ができ余暇が過ごせるなど、働くことが楽しくなる地域になっています。また、働く場と暮らす場が近くにあり、多様なワークライフバランスが実現しています。

## 「カッコいい」「ワクワクする」臨海部になっている

川崎臨海部の30年後のイメージを様々な視点から表現したものです



臨海部の取組が広く知られ、また文化的で創造性あふれる地域として臨海部全体が変化していくことにより、これまでのイメージから「カッコいい」「ワクワクする」といったイメージに変わり、市民の誇りとなる新しい臨海部像が確立しています。

## 災害時にも首都圏を守る要となっている



企業をはじめ臨海部に携わる関係者が協力し、強靱なライフラインと社会インフラ、協力体制を整えることにより、安心して働くことができ、また働く人や市民の命と生活を守る地域になっています。また、一大エネルギー拠点として、首都圏の生活を守る要となっています。



## 交通が快適になっている



川崎臨海部の30年後のイメージを様々な視点から表現したものです

新たな交通軸の整備などが進み、臨海部に通う人、集う人が、快適に移動できる場所になっています。

### 5-3 30年後の将来像（エリア図）

川崎臨海部の30年後の将来像について、機能とエリア図を次のとおり整理しました。

- 第4次産業革命を先導する新たな拠点を核に産業が波及し、**日本の成長を牽引**
- 健康・医療、環境・エネルギー、ものづくりなど、**川崎の強みを活かした産業が躍動**
- 多様な人材とのコラボレーションにより、**新たな価値を常に創出**
- 多様な産業と魅力的な住空間がある、**地域全体に楽しさと魅力が感じられる地域**
- 成熟社会における「豊かさ」を実現し続ける、**ワクワク感を抱ける地域**



※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、数値地図25000（地名・公共施設）及び基盤地図情報及び電子地形図（タイル）を使用した。（H27情使、第854-5号）

図表5-1 30年後の将来像（エリア図）

## 5-4 臨海部ビジョン推進による首都圏全域の発展

東京、横浜、千葉、内陸部など周辺環境を踏まえた広域的な連携を進め、川崎臨海部の長期的発展を首都圏域全体の発展につなげるとともに、世界への展開、世界との連携を進めます。



※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図、数値地図25000（地名・公共施設）及び基盤地図情報及び電子地形図（タイル）を使用した。（H27情使、第854-5号）

図表5-2 川崎臨海部と首都圏域との関係

### 内陸地域との連携

産業革命を先導するIoT連携を図ります。

### 東京圏域との連携

首都圏中枢機能（本社、省庁など）との連携、羽田・殿町の一体的戦略拠点形成、東京港との連携、水素などエネルギー連携を図ります。

### 京浜臨海部再編整備マスタープランとの連携

横浜市が策定している京浜臨海部再編整備マスタープランとの整合をとりながら、京浜臨海部の一体的発展、横浜港との連携、水素などエネルギー連携を図ります。

### 千葉県域との連携

千葉工業地域とコンビナート連携を図ります。